研究領域の内容とテーマ

Contents and themes of the Graduate School

看護社会学

看護実践は患者や関連するさまざまな他者との社会的相互作用で成り立っており、そのダイナミズムを分析的に理解でき、目的を持って関われることが重要となります。そのためには自身の判断と行動について内省的に理解することが求められます。こうした課題にもっとも関連するのは社会学の中のシンボリック相互作用論であり、そこに理論的基盤を置き、多様で複雑な経験を表現できる質的データを活用した研究展開が有効です。深い解釈力を身につけ理論モデル化ができるように、主要な質的研究法について理論特性と方法を学んでいきます。

木下 康仁 特命教授
KINOSHITA Yasuhito
Specially Appointed Professor

生命倫理学・看護倫理学

生命科学とヘルスケアの領域における人間の行為を、道徳的価値と諸原則等に照らして、学際的および体系的に研究します。医療・看護実践で生じる倫理的課題や医療者の葛藤を明らかにし、倫理的な看護実践およびその基盤を追究していきます。具体的なアプローチをさまざまな専門職や一般市民と協働して提案できる研究者、臨床現場で生命倫理学の基盤やその方法論をもとにして、臨床倫理委員会や倫理コンサルテーションの体制づくり、倫理教育プログラムの構築ができる人材を育成します。

鶴若 麻理 教授
TSURUWAKA Mari
Professor

看護心理学

心理学は、“こころ”という直接見ることのできない対象を扱う学問です。看護心理学では、“こころ”の在り方を捉える、あるいは測定するためのさまざまな手法を理解し、研究活動の基礎力を養うことが目標となります。また、人間の行動と心理的状態について理解することに関わる心理学の基礎概念を学び、それらを用いて看護の現場で出会う人々の心の在り方を科学的に洞察し、最終的に、看護実践において心理学の知識を踏まえた対処・支援を行うことができるようになることを目指します。

糟谷 知香江 教授
KASUYA Chikae
Professor

スクールヘルス

現職養護教諭、養護教諭志望者、その他広く「子どもたちの健康、安全」をめぐる課題やその解決について探究したい方向けに開設されている分野です。多様化する健康、安全の課題に、高いリーダーシップと分析力をもって対応できる人材育成を目指しつつ、研究を進めていきます。この学びには、学校保健学、教育学を支える心理学、社会学等の基礎領域の知見や手法の習得も含まれます。なお、養護教諭一種免許状を有する場合は、本分野の修了によって、養護教諭専修免許状の取得が可能です。

歌川 光一 准教授
UTAGAWA Koichi
Associate Professor

看護理論・看護学研究法／看護とデータサイエンス

看護理論は、看護に関連した現象を記述し、予測し、説明することを目的としています。これまでにさまざまな理論が公表されてきました。日本の看護実践をよりよくするために、理論を分析し、新たな理論を一緒に考えてみませんか。患者に対してエビデンスに基づくケアを提供するためには、理論だけでなく、看護研究を理解し、さらなるエビデンスを構築する質の高い研究が求められています。当領域では、研究デザインについての理解を深め、エビデンスを構築する研究とは何かを考えていきます。

看護の臨床現場では、日々様々な健康情報が蓄積されています。こうしたデータを活用し、看護や医療の質を改善するための研究や看護の現場を変革するプロジェクトに一緒に取り組んでみませんか。リアルワールド・データは、看護現象をより豊かに、生き生きと照らし出す可能性を秘めていると言われています。看護とデータサイエンスでは、診療情報等のリアルワールド・データ等を用いて、看護を客観的に記述し、看護ケアの実態や課題を明らかにしていく研究に取り組みます。

奥山 絢子 教授
OKUYAMA Ayako
Professor

看護情報学

多様で複雑な健康・医療情報に翻弄されず、市民や患者が適切に意思決定し、生涯を通じて学び成長できるための支援を目的としています。そのために、健康問題やストレスに直面しても、社会の一員として、自らの目標を達成し、潜在的な力を成長させる力としてのヘルスリテラシー（的確に情報を入手、理解、評価、意思決定する力）について研究します。そこで必要となる、意思決定、ヘルスプロモーション、ヘルスコミュニケーション、健康社会学の理論と社会調査・統計学の知識とスキルを修得します。

中山 和弘 教授
NAKAYAMA Kazuhiro
Professor

看護疫学・統計学

本講座では、記述統計学および推測統計学の基礎を学び、保健統計指標や量的研究結果を正しく理解し、利用することができるようになることを目指します。統計学の基本的考え方をはじめ、仮説検定理論、P値、信頼区間、生存時間解析としてのカプランマイヤー法などを学びます。また、実際の研究論文を題材とし、講義と批判的吟味の実習を通して、ランダム化試験やその他疫学研究デザインの原理について理解を深めます。

八重 ゆかり 教授
YAJU Yukari
Professor

基礎看護・看護技術学

基礎看護・看護技術学は、年代や健康課題に限らず、さまざまな看護現象をテーマに研究に取り組んでいます。看護に共通した効果をデータによって示し、看護学の概念を豊かに醸成することを目指しています。人々の健康を守り高め、看護が何であるかを言語化し、看護の基礎的学問領域に資するために、質的研究や医療・保健現場での観察研究や介入研究を行っています。

佐居 由美 教授
SAKYO Yumi
Professor

ニューロサイエンス看護学

脳神経科学分野の研究を応用しながら、全人的に中枢神経系疾患患者の看護を追究する学問領域であり、脳卒中、頭部外傷、パーキンソン病などの神経変性疾患による意識・運動・感覚障害を持つ患者とその家族の看護を専門とします。科学研究を応用した先端技術の看護を追究する一方で、遷延性意識障害といった重症脳神経障害患者と家族に焦点を当て、生命倫理やアドボカシー、QOLの観点からも学び、高度な実践ができる看護師およびエビデンスを創生する研究者を育成します。

大久保 暢子 教授
OKUBO Nobuko
Professor

ニューロサイエンス看護学 大久保暢子研究室のホームページ
https://okubo-neuroscience.com

看護教育学

優れた実践力を持ち実践の場に軸足を置く教育者（クリニカル・ナースエデュケーター：CNE）と、優れた研究力を持ち教育の場に軸足を置く大学教員を未来の看護系大学教員として育成しています。ゼミでは、さまざまな文献を読み、経験を話し合い、変容的学習を体験します。また、看護専門職としての資質や能力をいかに育むかを探究し、その成果を学部教育や現任教育に活用しています。研究テーマは、ファカルティ・ディベロップメントや継続教育、看護師や看護学生の臨床判断能力開発など多岐にわたります。

小山田 恭子 教授
OYAMADA Kyoko
Professor

看護管理学

人々の健康や生活を支援するという看護の目的の達成に向けて、質の高い保健医療サービスの提供に必要な要素を、看護学の視点から探究します。具体的には、ヘルスケアに関わる社会の状況や制度・政策、人材育成、医療の質とその評価、課題解決へ向けた戦略的なマネジメント、意思決定における倫理的なリーダーシップなどについて学びます。複雑性を増す社会の中で、人々の多様な価値観やニーズの存在を理解し、多角的に課題を捉え解決に導くことができる、未来の看護リーダーを育成します。

奥　裕美 教授
OKU Hiromi
Professor

遺伝看護学

遺伝医療は親から子に伝わるという継承(heredity)だけでなく、多様性(variation)という視点が重要になります。「対象」「場」「時間」の多様性に富む中で、問題・課題に多角的に取り組む領域です。「遺伝」という視点を持って医療・社会を見つめなおすと、看護実践・研究はより深いものになります。高度な専門的知識・技能・研究能力を修得し、確かなエビデンスと豊かな感性を持って遺伝医療を探究します。上級実践コースは、遺伝看護専門看護師の教育課程です。遺伝医療の対象となる人々が情報を有効に活用して意思決定できるように、遺伝看護の実践力向上に必要な知識・技術・態度を学びます。

青木 美紀子 准教授
AOKI Mikiko
Associate Professor

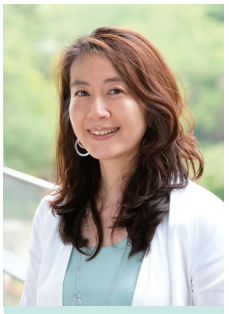
小児看護学

近年のわが国および世界で、小児看護が求められる場面は高度化・複雑化・長期化しています。また、少子の課題の中で一人ひとりの子どもが十分に持てる力を発揮できることを支える看護が求められます。大学院では、小児看護学全般の知識・理論を基盤としながら、高度な実践および研究を用いて、子どもと家族のQOL向上の実現を目指します。さらに、子どもと家族のそれぞれの健康レベルに合った最大限の自立を促進する看護を探究します。実践や研究のフィールドは医療現場、保育園、学校などさまざまで、多施設協働研究も行っています。

小林 京子 教授
KOBAYASHI Kyoko
Professor

ウィメンズヘルス

女性の一生涯にわたる健康を追究する領域です。各ライフステージで起こりうる心身の変化を通じて、健康であり続けることを支援します。また、疾患や障がいと生殖の問題、それらに直面する女性とパートナー、子ども、コミュニティも看護の対象としています。性教育、家族計画、生殖看護など、リプロダクティブ・ヘルスにおける社会の要請に応える支援にも取り組んでいます。研究と実践を連動させ、ウィメンズヘルス看護に大きく貢献できる人材として、母性看護専門看護師(CNS)や研究者を育成します。



五十嵐 ゆかり 教授
IGARASHI Yukari
Professor

助産学

女性を中心に、パートナー、子ども、家族、コミュニティを対象とした助産ケアを追究します。妊娠・分娩・産褥・新生児期のマタニティ・サイクルにおける助産ケアの質向上を目指すほか、性暴力被害者支援、ペリネイタル・ロスへの支援など社会の片隅に追いやられている課題にも取り組んでいます。国際母子保健に関する研究や、助産管理、助産教育に関する研究も行っています。エビデンスを<創る><使える>人材を育成します。

堀内 成子 特命教授
HORIUCHI Shigeko
Specially Appointed
Professor

片岡 弥恵子 教授
KATAOKA Yaeko
Professor

慢性期看護学／がん看護学・緩和ケア

慢性長期的な経過を辿る疾患とともに生きる患者とその家族の特徴の理解、さまざまな療養過程と各期における看護介入など、慢性期看護に必須の概念・理論を学び実践方法を探究しています。演習では聖路加国際病院をはじめ各専門病院、大学病院における臨床実践を通じて、実践に適用可能なモデルの開発を目指します。

多岐にわたる治療を受けるさまざまな病期のがん患者とその家族の特徴の理解、また苦痛症状のある患者に対する看護介入など、がん看護や緩和ケアにまつわる概念・理論と実践方法を探究しています。上級実践コースでは聖路加国際病院ならびにがん専門病院等における実習や、臨床の第一線で活躍するがん看護専門看護師による直接指導のもと、より高度な看護実践能力を育成します。

林　直子 教授
HAYASHI Naoko
Professor

老年看護学

虚弱、認知症、慢性疾患などを持つ高齢者とその家族を対象とした看護、ヘルスプロモーション支援を探究します。修士論文コースでは、理論的基盤の上に、高度な研究能力の修得を、上級実践コースでは、高度看護実践能力を身につけ老人看護専門看護師認定取得を目指します。博士課程では、テーマに関する文献レビューと概念分析を行い、研究方法やデータ解析の検討後に予備的な研究を進め、博士論文の作成へつなげます。両課程とも、希望者は欧米豪の大学での研修をサポートします。

亀井 智子 教授
KAMEI Tomoko
Professor

精神看護学

人々のこころの健康（メンタルヘルス）や、精神疾患をもって生活される方・ご家族へのケアについて、ケア対象者の持つ強みに注目し、回復に寄り添う支援を探究します。精神科訪問看護の普及や質の向上、専門職や市民に対するメンタルヘルス支援、対象者との共同意思決定などの研究を行っています。研究と実践との協働を通じて、専門性と俯瞰的視点を持つ精神看護専門看護師や研究者の育成を目指しています。

瀬戸屋 希 教授
SETOYA Nozomi
Professor

急性期看護学

急性期の対象と家族のQOLの維持・向上を目指し、早期回復とその人らしい望ましい生活の獲得への看護を探究します。修士論文コースでは急性期のみならず、健康支援に必要な理論やエビデンスの理解を深め、急性期の健康課題に対する高い研究能力の獲得を目指します。上級実践コースでは、急性期の対象に高度な看護実践を行い、QOLを高める看護実践能力の獲得を目指します。博士後期課程では、健康各期の連続性を見据え、急性期の健康課題への新たな看護支援方法の開発を行っていきます。

吉田 俊子 教授
YOSHIDA Toshiko
Professor

公衆衛生看護学

公衆衛生看護学は、社会や組織・集団に働きかけ、個人や家族への支援と社会・組織・集団への支援が連動するところに特徴があります。行政・産業・学校・その他の公衆衛生看護領域における人々の健康、および保健・医療・福祉システムに関する諸課題について、さまざまな視点から捉え、対応するための、またよりよい実践のための方法論を探究・創造していきます。自立・自律した実践力と研究能力の修得を目指します。

麻原 きよみ 教授
ASAHARA Kiyomi
Professor

在宅看護学

人々の暮らしに軸足を置いた看護を総じて在宅看護と捉えています。訪問看護だけではなく、病院の外来看護や退院支援、あるいは施設内の看護、さらには地域での多様な看護活動も含めて在宅看護であると考えています。病気は地域で予防し治すもの、人々は支え合いながら暮らすものという地域包括ケアの考えに基づき、看護が新しい役割を意識して、働き方を変えていくことが求められています。幅広い話題と対話を通して一緒に学んでまいりましょう。

山田 雅子 教授
YAMADA Masako
Professor

国際看護学

国際看護とは、世界の人々のよりよい健康維持・改善のために、グローバルヘルスの課題を学び、看護職者として、科学的根拠に基づく研究や活動を行います。国連の目標であるSustainable Development Goalsを軸に、母子保健、感染症、慢性疾患、ユニバーサルヘルスカバレッジ、環境問題などについて学びます。海外へのフィールドワーク、インターンシップを通して、グローバルヘルスの課題に対して貢献する研究能力やリーダーシップの技術を磨きます。WHOなどの国際機関や政府機関、NGO、JICA、アカデミアなどで活躍するグローバルヘルスリーダーを育成します。

大田 えりか 教授
OTA Erika
Professor